（C）日刊スポーツ新聞社

主力としてW杯5連覇貢献

侍ジャパン女子日本代表 志村コーチ 世界一導く

コーチとして女子野球W杯での優勝を目指す志村氏は6連覇へ気合入る　㊥16年8月のU18アジア選手権壮行試合で始球式を務めた志村

ベストナイン2度

◆志村亜貴子（しむら・あきこ）1982年（昭57）11月9日、広尾町生まれ。広尾小4年で野球を始めた。広尾高でやり投げに転向するも、浅井学園大（現北翔大）進学後に札幌シェールズで再転向。ホーネッツ・レディースを経て、現在はアサヒトラスト。ポジションは中堅手。女子W杯では10年、14年にベストナイン（外野手）。家族は両親と兄。右投げ右打ち。160センチ、56キロ。

会いたかった人 聞きたかった事

役割変わり勉強の日々 現役選手

マドンナジャパンが正式発足した06年の第2回大会から16年の前回大会まで6度のW杯に出場し、5連覇に貢献した。12年から主将を務めるなど、長きにわたって代表チームの中心選手として活躍。今大会は現役選手でありながらコーチとして臨む。

志村氏　コーチの話を頂く前は（日本代表の）選手としてやろうか、どうしようか考えていた。橘田監督から電話で「現役選手を続けていく中で、伝えられることをいろいろと伝えて欲しい。やってくれないか」と話を頂いた。そしたら素直に断る理由がないなって思って引き受けました。

17年10月の就任後、代表選手選考のトライアウトや2度の強化合宿に参加。28日から新潟市内で5試合の強化試合が控えている。求められる役割も変わり、指導者として勉強の日々を送る。

志村氏　（グラウンドに立つ感覚は）違いますけど、何となく気は楽だなと思いましたね。合宿中もチーム内でここから何人か絞られるという勝負になっている。それに入っていないのはものすごく楽だなとは思いました。ただコーチになると勝たせないといけないというプレッシャーに変わってくるので、そこは重いかなと思う。

5連覇を決めた前回のチームから世代交代が進んだ。今大会の日本代表は平均年齢21・3歳。10代の選手は前回の2人から9人に増えた。

志村氏　私も初めて日本代表になった（23歳の）時はいけいけで（代表の意味を）それほど考えていなかった。長年やってきて、そうじゃないというのが分かった。日本代表で戦っているというのを分かっていないと勝ちにはつながらない。代表では代表の役割がある。ポジションや打順も変わってくる。チームのためにどれだけ犠牲になれるか。代表が若くなったのでそこをもう少し意識させたいというのはあります。

8月開幕「チームのためにどれだけ犠牲になれるか　もう少し意識させたい」

指導者としても目指すは世界一。侍ジャパン女子日本代表（マドンナジャパン）として女子野球W杯5連覇に貢献した広尾町出身の志村亜貴子氏（35）が第8回大会（8月22～31日、米国フロリダ州）ではコーチとして日の丸を背負う。現在もクラブチームでプレーする現役選手ながら橘田恵監督（35）に経験を買われて昨年10月に就任。新たなステージに立つ心境を聞いた。

米国開催　準備が大事

短期決戦

国外で行われる世界大会の場合、環境の変化から、日本人にとって想定外の事象が続発する。試合時間の変更や練習の中止は日常茶飯事。過去にベネズエラ大会の期間中、香港の選手が流れ弾で負傷。事件後、銃を持ったガードマンに警護されながら、試合が行われた。今回の大会は優勝を争うライバル米国のフロリダで開催される。

志村氏　W杯で戦うのと国内で戦うのはだいぶ違う。（今回のメンバーは）プレー、技術は間違いなく高いので、それをどう本番で出せるか。短期決戦では選手1人1人が自分の役割、やらないといけないことを理解し、それに対して準備することが大事になってくる。

広尾小で野球を始めてから四半世紀がたち、現在は荒川区内の中学校の教員として野球部を指導しながら、クラブチームの主将としてチームをまとめる。日本代表として5連覇を成し遂げ、女子野球の礎を築いてきた経歴に日本代表コーチの肩書が加わる。志村氏にとっての日本代表とはどういった存在なのか。

志村氏　子どものころからずっとそこが夢だったので、そこに入って野球をやって世界一になるのがずっと夢。そこは今でも変わらない。そのために野球をやっているようなもの。それほど特別なものです。【浅水友輝】

日米加豪4強

◆女子野球W杯　第8回大会の出場は12カ国。2グループに分かれ、予選ラウンドを行い、上位3チームがスーパーラウンドに進む。その上位2チームで世界一決定戦に臨む。世界ランキング1位の日本、開催国の米国、カナダ、オーストラリアが世界4強と言われる。うち日本を含む3チームがBグループに同居。6連覇を狙う日本は「死の組」を勝ち抜く必要がある。試合は7イニング＋タイブレーク制で行われる。

とわの森三愛19連覇

とわの森三愛の大須賀投手は力投する

高校総体道予選

◇17日◇ソフトボールほか◇石狩市スポーツ広場ほか

大須賀完封

ソフトボール女子は、とわの森三愛が決勝6－0で札幌東商を下し、19年連続23度目の優勝を飾った。エース右腕の大須賀まどか（3年）が1安打完封。打線も10安打6点と圧倒した。五十川智美監督（28）は「まあまあ。2年目で私の思いが伝わるようになった」と、投打の成長ぶりに満足そうだ。

ソフトボール
【女子】▽決勝
とわの森三愛 4 0 0 0 2 0 0 0 6
札幌東商 0 0 0 0 0 0 0 0 0
【と】大須賀－堀川【札】藤田、竹内－今村、木暮（と）

3月の選抜は準々決勝で創志学園（岡山）に1－5で敗れ、昨春の選抜から総体を挟み3季連続Vを許した。無安打に終わった堀川侑愛（ゆあ）主将（3年）は「チェンジアップで体勢を崩され、自分たちの打撃ができなかった。余裕も感じた」という。5失点の大須賀は「ボール1個分外のボールでも、簡単にフェアゾーンに持っていかれた」と衝撃を受けた。

雪辱の夏へ、打撃ではホームベース5メートル手前からボール1・5個外のボール球を打ち返す練習を実施。投手陣の層も厚くなった。2番手の佐々木みのり（3年）が5月に最速96キロに到達、大須賀も今月に入って負けじと96キロを計測した。「春より打てる。96キロが2枚いるチームも全国では少ない」と五十川監督は手応えを語る。

実業団や大学から誘われている堀川だが、卒業後は「まあまあ。代表が若くなったのでそこをもう少し意識させたいというのはあります。」

北海道 HOKKAIDO

◆北海道版の写真をお分けします◆　サイズ、料金などをお問い合わせの上、現金書留でお申し込みください（プロスポーツや芸能など提供不可の写真もあり）。申し込みは〒104・8055日刊スポーツ新聞社フォトサービス係へ。問い合わせは☎03・5550・8831（平日の午前11時から午後7時まで）

野幌ファイターズ3回戦進出

コープさっぽろ杯　日刊スポーツ旗争奪　少年野球㊥春季大会

◇17日◇札幌・稲穂公園野球場ほか

本田3者凡退締め

野幌ファイターズが屯田ブルースターズを4－2で下し、3回戦に進出した。野幌4安打、屯田3安打と両投手陣が好投。野幌は最終5回、2番手の本田譲二投手（江別第二小5年）が3者凡退で締めた。3アウト目の打球は一、二塁間を抜けたが、福見悠介右翼手（江別野幌若葉小6年）が素早く一塁へ送球。本田は「抑えられて良かった」とうれしそうに話した。

2番手で登板し3回1失点に抑えた野幌ファイターズの本田投手

江別市内4小学校からの部員23人は、三科圭介監督（56）が「モットーは全力疾走！」という元気さが自慢。初回に先制のホームを踏んだ1番桜庭聖哉主将（江別大麻小6年）は「今日は声も出ていた」と笑顔をみせ、豊田航樹副主将（江別東野幌小6年）は「（出場大会の優勝を）全部取ります」と大きな目標を掲げていた。

〈特別協賛〉生活協同組合コープさっぽろ〈協賛〉さっぽろ健康スポーツ財団、デサント、東洋水産、北海道整形外科記念病院、雪印メグミルク〈協力〉ナガセケンコー

とわの森三愛のメンバーは19連覇に笑顔（撮影・中島洋尚）　切り込み写真は5回表とわの森三愛無死一塁から生還し、笑顔でハイタッチする堀川捕手（左）

少林寺拳法（旭川南港体育館）＝総合、団体以外は1位記録
【男子】▽総合　❶旭川北❷北海学園札幌❸札幌国際情報▽団体　❶北海学園札幌❷旭川北❸札幌北陵▽組演武　札幌国際情報（尻江、坂口）▽単独演武　城沢大河（札幌国際情報）▽見習単独演武　伊藤達也（旭川北）
【女子】▽総合　❶富良野❷札幌北陵❸札幌国際情報▽団体　❶富良野❷札幌北陵❸旭川北▽組演武　富良野（斎藤、塚田）▽単独演武　中野なつみ（富良野）▽見習単独演武　能登陸空（富良野）

ホッケー（江別・道立野幌総合運動公園ホッケー場）
【男子】▽最終順位　❶北海学園札幌＝出場1校
【女子】▽最終順位　❶北海学園札幌1勝1分け❷江別1勝1敗❸札幌新陽1分け1敗

ボート（石狩・茨戸川ボート場）＝1位記録
【男子】▽シングルスカル　吉田台（石狩翔陽）▽ダブルスカル　網走桂陽（武田、山地）▽舵手付きクオドルプル　函館水産（勝又、川村、滝川、武田、米田）
【女子】▽シングルスカル　寺崎桃渚（網走南ケ丘）▽ダブルスカル　石狩翔陽（千野、秋）▽舵手付きクオドルプル　網走南ケ丘（佐藤、加藤、向、東出、倉田）

社会人野球◆組み合わせ決定　第89回都市対抗野球（7月13日～、東京ドーム）の組み合わせ抽選会が17日、東京都内で行われた。JR北海道クラブ（札幌＝4年連続15度目）は大会2日目午後2時開始予定の1回戦でJR西日本（広島市＝3年連続4度目）と対戦する。

高校野球◆招待試合　北海道高野連函館地区による招待試合最終日は17日、函館市千代台公園で青森山田と2試合が行われた。函館工は3－9で敗れ、函館大有斗は3－1で勝利。前日16日から4試合を2勝2敗で終えた。

◇大学野球1、2部入れ替え戦（17日・栗山町民）
札幌国際大（1勝2敗）
0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 1
北海学園大（2勝1敗）
0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 2 1X
【札】矢野目－江上【北】中島－濁沼
※北海学園大が1部残留

ボクシング◆佐々木がU15優秀賞　北海道女子選手権兼UJ大会が17日、札幌市北区体育館で行われ、優秀賞はU15が佐々木大斗（タキ）U12が神田翔大（北区）敢闘賞は河合優作（K&K）と工藤優雅（G！MA）が選出された。

◇剣道　☆国体道予選（17日、札幌・北海きたえる）
【男子】▽少年代表　小山、外崎、浜田元木（以上札幌日大高）松井東海大札幌高▽成年代表　安藤若生、米花、今野（以上札幌市）山田（釧路市）
【女子】▽少年代表　関川、尾張、浜田（以上札幌日大高）新崎（広瀬（以上東海大札幌高）▽成年代表　渡辺（名寄地方）若沢（羅臼町）養金（札幌市）

◇サッカー　☆プレナスチャレンジリーグEAST（17日、札幌厚別公園競技場）
▽第11節
イレブン上尾（22）2－0 1－1 つくばFC
ティアモ枝幸（22）2－0 1－1 レディース（5）
【ノ】柴田、奏【つ】亀井

林2年ぶり3度目V

北海道オープンスカッシュ選手権

選手権男子決勝　熱戦を繰り広げる林（左）と遠藤　㊥林（左）は、準優勝の遠藤に祝福される

◇17日◇札幌・KGセントラルフィットネス山鼻

日本ランク8位

男子は日本ランキング8位の林尚輝（22＝専大）が決勝3－2で遠藤共峻（23＝First Wave）を下し、出場4度目で15、16年に続く3度目の優勝を果たした。2セットずつ取って取られての接戦を、第5セット11－7で振り切った。1時間半に及んだ持久戦を制し「準決勝で5ゲーム戦ったのがこたえた。きつかったけど、北海道はこれで3回目の優勝です」と喜んだ。

【男子】▽決勝
林（専大）3－2 遠藤（First Wave）
【女子】▽決勝
酒井（順大）3－0 松沢（Squash-Life）

昨年1年間は大学を休学しオーストラリア留学。「最初は手伝いをしながらスカッシュコートの宿泊所に寝泊まりしました」とたくましい。4年生の今年も、学生と選手生活を両立。今週末には東アジア選手権（23日～、韓国）に日本代表として遠征する。この日は表彰式を終えると、すぐに居住する神奈川への帰り支度を始めた。「明日（18日）は1講目から授業があるんで」。ゲンのいい北海道でゆっくりはできなかったが、笑顔で会場を後にした。

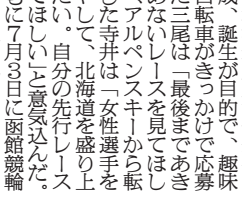
◆男子2位の遠藤（5月20日に米ロチェスター大を卒業し帰国）　日本に戻ったばかりの試合なので優勝で決めたかった。最初の2セットのどちらかは取らなければいけなかった。

三尾谷寺井7・3デビュー

WGP1期生

複合型場外発売所サテライト石狩（石狩市新港南）で17日、北海道出身の新人女子競輪選手のデビューイベントが開催された。

函館けいりんが立ち上げた「ホワイトガールズプロジェクト」1期生の三尾那央子（31＝函館市出身）と寺井えりか（26＝紋別市出身）が登場。同プロジェクトは北海道所属女子選手の養成、誕生が目的で、趣味の自転車がきっかけで応募した三尾は「最後まであきらめないレースを見てほしい」、アルペンスキーから転向した寺井は「女性選手を増やして、北海道を盛り上げたい。自分の先行レースを見てほしい」と意気込んだ。ともに7月3日に函館競輪場で開催される「サテライト石狩杯」でデビューする。



トークイベントに登場したガールズ競輪の左から三尾と寺井

選手権女子で優勝した酒井

女子酒井初V

○…女子は昨年初出場で準優勝の酒井真美（20＝順大）が出場2度目で頂点に立った。偶数月の10日に発表される最新の日本ランキングで4位の実力者。決勝は第1セット12－10と小差だったが、残る2セットは6、7失点にとどめ、決勝を含む全4試合ストレート勝ち。5月の九州オープンに続く優勝に「次は7月の関東オープン」と目標を挙げていた。

◆女子2位の松沢彩香（29＝Squash－Life）　昨年の3位は超えたけれど、課題としていた安定したプレーはできなかった。

〈特別協賛〉生活協同組合コープさっぽろ〈協賛〉さっぽろ健康スポーツ財団、デサント、東洋水産、北海道整形外科記念病院、雪印メグミルク〈協力〉ナガセケンコー

「宝塚記念特集号」発売中　レイアウト＝木康充